



Photo by 東京都 /Tokyo2020



Photo by 東京都 /Tokyo2020



Photo by 東京都 /Tokyo2020



東京2020 オリンピック・パラリンピック フラッグツアー Tokyo 2020 Olympic Flag and Paralympic Flag Tour



Photo by 東京都 /Tokyo2020

東京2020オリンピック・パラリンピック フラッグツアー
フラッグ歓迎イベントが開催されました！
2019.3.3 (日) 山中湖村プール併用村民体育館

3月3日(日)、全国を巡回してきたオリンピックフラッグ、パラリンピックフラッグがいよいよ山梨県にやってきました。

東京2020オリンピック・パラリンピックフラッグツアーは、オールジャパンで東京2020大会を盛り上げるため、オリンピックフラッグ・パラリンピックフラッグが全国を巡回するイベントです。2016年10月より東京都内をスタートし、被災地を経て、全国の道府県を巡回してきました。主催は、東京都、東京2020組織委員会、JOC及びJPC。

同日、山中湖村プール併用村民体育館において、フラッグ歓迎イベントが行われ、会場には、長崎知事、県議会議員のほか約600名の道志・山中湖両村民が参加しました。本村から長田村長、長田副村長、佐藤教育長ほか村議会議員の皆さま、小中学生とその保護者ら多数にご協力いただきました。

開会に先立ち、オープニングアクトとして、道志中学校1・2年生による東富士七里太鼓「富士三段返し」が披露され、迫力ある演奏がフラッグ歓迎イベントに花を添えました。

フラッグツアーアンバサダーを務めた、ロンドン2012大会でレスリング男子フリースタイル66キロ級において金メダルを獲得された米満達弘さん(富士吉田市出身)から、知事へオリンピックフラッグが引継がれ、知事から自転車ロードレースのコースとなった道志・山中湖両村長へ、両村長から道志・山中湖両小学校代表者へと次々と壇上で手渡されました。





Photo by 東京都 /Tokyo2020



Photo by 東京都 /Tokyo2020



本村の児童・生徒代表を務めたのは、道志小学校6年生の出羽高虎さんと道志中学校2年生の水越萌媛さん。オリンピックフラッグを受け取る力強く壇上で振っていました。

引継がれたオリンピックフラッグのシンボルマークは、オリンピック・ムーブメントの活動を表すとともに、5つの輪が5つの大陸の団結、さらにオリンピック競技大会に全世界の選手が集うことを表現しています。

なお、パラリンピックフラッグは、山梨県立ふじぎくろ支援学校の代表者へと引継がれました。パラリンピックフラッグのシンボルマークは「スリーアギトス」と呼ばれ、「アギト」とは、ラテン語で「私は動く」という意味で、困難なことがあってもあきらめずに、限界に挑戦し続けるパラリンピアンを表現しています。

長崎知事から「大会が大成功に終わるように力を合わせていきたい」と挨拶があり、米満さんからは「山梨県からも東京オリンピックの代表選手が出るはずですよ。選手を応援して、みんなで大会を盛り上げましょう」と

呼びかけました。米満さんはトークショーにおいてロンドン2012大会の思い出を紹介し、参加した小中学生に対し、「何事も強くなるためには好きになることが大事」とエールを送りました。



Photo by 東京都 /Tokyo2020

オリンピックフラッグ・パラリンピックフラッグが道志村にやってきた！

3月4日（月）、オリンピックフラッグ、パラリンピックフラッグが道志村役場1階ロビーに展示されました。

当日は、多くの村民の皆さんが展示会場へお越しいただき、記念に写真撮影をするなど、オリンピック・パラリンピックをより一層身近に感じるきっかけになったのではないのでしょうか。

山梨県内では3月3日（日）に山中湖村でフラッグ歓迎イベントが開催され、同日から29日までの間、県内市町村を巡回し、多くの皆さんの目に触れられてきました。

3月30日、全国の巡回を終えたフラッグは東京都へ戻り、東京都丸の内中央広場では大会500日前を記念した「東京2020オリンピック・パラリンピックフラッグツアーファイナルイベント〜Tokyo 2020 500 Days to Go〜」が開催されました。



役場1階ロビーに展示されました



職員がフラッグを背景に撮影しました